



①

黒部川第四発電所は、戦後の経済復興の深刻な電力不足を解消するために、過酷な自然環境の中で、1956年から7年の年月を費やし、延べ1,000万人の労力と多額の費用を投じて建設されました。その工事の過酷さは、「黒部の太陽」として映画化されています。

黒部川第四発電所建設にあたっては、当時の最高水準の技術が採用され、その後の水力発電所の基礎技術となっているものも多くあります。

電気設備では、当時、6射ノズルとしては世界最大出力の立軸ペルトン水車(95,800kW)や日本初採用の275kV OFケーブルがあります。特に、OFケーブル採用にあたっては、関西電力㈱とケーブルメーカーによる「黒四超高压ケーブル研究会」を発足させ、多数のケーブルの試作、理論的な研究・試験を積み重ね、発電所の開閉所から送電線引出口までの巨長180m・高低差68mに適用しました。

土木設備では、当時の土木技術を結集し、過酷な破砕帯の克服や現在でも日本最大高さを誇る186mのアーチダムを完成させました。

黒部川第四発電所の発電出力は、1961年に1、2号水車発電機154,000kWで運転を開始し、次いで1962年に3号水車発電機の運転開始により234,000kWに増加し、1963年(昭和38年)に発電所の完成を迎えました。さらに、1973年には4号水車発電機が増設され、現在の335,000kWにまで増加しました。

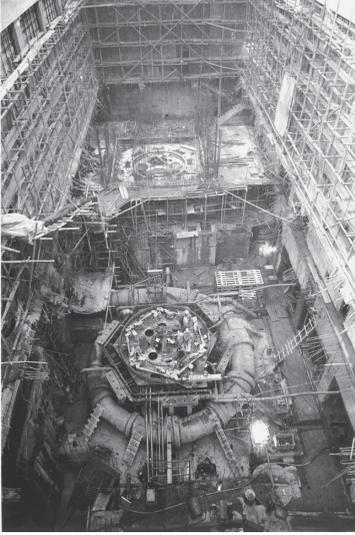
また、黒部川第四発電所の建設は、発電放流水を効率的に活用した新規電源の開発を促進し、高度経済成長時の急速な電力需要への対応が可能となり、日本の戦後の経済復興に大きく貢献しました。

☆顕彰先 : 黒部川第四発電所

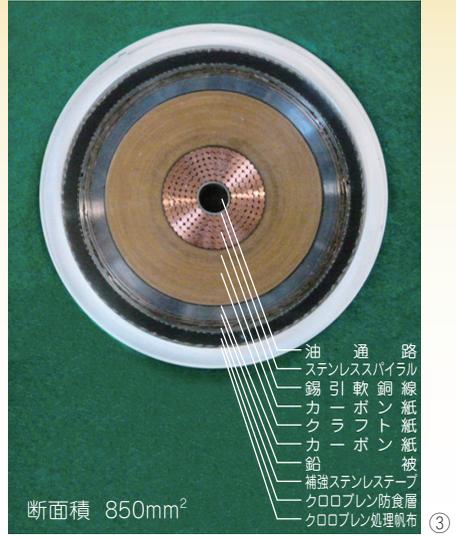
☆所在地 : 〒938-0200 富山県黒部市宇奈月町黒部奥山国有林東谷

☆ホームページ : <http://www.kurobe-dam.com/>

☆アクセス(最寄駅) : JR大糸線 信濃大町駅(路線バス)～扇沢駅(関電トンネルトリーバス)～黒部ダム駅(一般交通ルートでは黒部ダムまで)



②



③



④

⑤



(写真提供：関西電力株式会社)

- ① 黒部ダム
- ② 1・2号ペルトン水車設置状況
- ③ 275kV OFケーブル
- ④ 破碎帯の掘削状況
- ⑤ 太田垣士郎 記念碑

経営者が十割の自信をもって取りかかる事業 そんなものは仕事のうちには入らない 七割成功の見通しがあつたら勇断をもって実行する それでなければ本当の事業はやれるものじゃない 黒部は是非とも開発しなけりゃならん山だ